Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2025
JULY

No. 101

Sat. 19th July
Kawasaki Subscription Concert

No. 732

Mon. 21st July
Subscription Concert

7

TOKYO
SYMPHONY
ORCHESTRA

Jonathan Nott, *Music Director*

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, *Music Director*

音楽監督	**ジョナサン・ノット**
桂冠指揮者	**秋山和慶◆**
	ユベール・スダーン
正指揮者	**原田慶太楼**
名誉客演指揮者	**大友直人**
永久名誉指揮者	**アルヴィド・ヤンソンス◆**
	上田　仁◆
	遠山信二◆

名誉コンサートマスター　大谷康子

第1コンサートマスター	小林壱成
	グレブ・ニキティン
コンサートマスター	田尻　順

会　　長	澤田秀雄	
理事長	岡崎哲也	
副理事長	平澤　創	
	依田　巽	
専務理事	廣岡克隆	
理　　事	阿部武彦	辻　　敏
	池辺晋一郎	永山　治
	伊藤美樹	夏野　剛
	大橋　博	南部靖之
	コシノジュンコ	福川伸次
	菅谷貴子	増岡聡一郎
	竹中平蔵	森　京子
監　　事	寺西基之	
	渡邊芳樹	
評議員長	梅沢一彦	
評議員	鶯海量明	星　久人
	片山泰輔	山添　茂
	加藤英輔	芳野まい
	金山茂人	
最高顧問	金山茂人	
特別顧問	飯島延浩	福田紀彦
	草壁悟朗	

【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

1st Violins
○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
小山あずさ
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理

2nd Violins
◎清水泰明
◎服部亜矢子
○加藤まな
○福留史紘
河裾あずさ
鈴木浩司
辻田薫り
阿部真弓
坂井みどり

Violas
◎青木篤子
◎武生直子
◎西村眞紀
○多井千洋
○山廣みほ
新井瑞穂
小西応興
鈴木まり奈

Cellos
☆伊藤文嗣
▣笹沼　樹
○川井真由美
内山剛博
蟹江慶行●
樋口泰世
福崎茉莉子
渡邊ゆかり

Double Basses
▣助川　龍
◎コーディ・ローズブーム
○北村一平
○久松ちず
安田修平
渡邉淳子
内岡沙月＊

Flutes
▣相澤政宏
◎竹山　愛

Flute&Piccolo
濱崎麻里子

Oboes
◎荒　絵理子
◎荒木良太
浦脇健太

Oboe&English horn
最上峰行

Clarinets
◎エマニュエル・ヌヴー
◎吉野亜希菜
近藤千花子

Bassoons
◎福士マリ子
◎福井　蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns
◎上間善之
加藤智浩
白井有琳
藤田麻理絵

Trumpets
◎澤田真人
◎ローリー ディラン
野沢岳史●
松山　萌

Trombones
◎大馬直人
◎鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone
藤井良太

Tuba
近藤陽一

Timpani& Percussions
◎清水　太
◎山村雄大
武山芳史
綱川淳美

Harp
渡辺沙羅＊

Librarians
林　知也
加藤幸子

Stage Managers
西岡理佐
山本　聡

栄誉団員
井伊　準◆

楽団長
廣岡克隆

編成局シニアディレクター
藤原　真

編成局パーソネルマネージャー
謝名元　民

楽団委員
北村一平（議長）
多井千洋（書記）
浦脇健太
鈴木浩司
福留史紘
最上峰行

事務局長
辻　　敏

事務局
■尾木貴雄
□高瀬　緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎　日向
小川博司
桐原美砂
長久保宏太朗
三橋真琴
山田道子
◘梶川純子
藤山保子＊
山本未央子＊

名誉団友
深江泰輔◆
三木晴雄◆

団　友

天野佳和	塩谷しずか
新井　汎	篠崎　隆
安藤史子	菅野明彦
池田　肇	杉浦直基
石川晴依世	鈴木一輝
今村和弘	曽根敦子
岩澤淳子	高野成之
上原正二	武田英昭
上原規照	田中真輔
上原末莉	千村雅信
内田彬雄	十亀正司
内田乃俐子	豊山　悟
宇都　実	永井聖乃
梅田　学	中塚和良
大隅雅人	中塚博則
大塚正昭	中山　智
大埜展男	新澤義美
大和田浩明	西依智子
大和田ルース	西脇秀治
小川さえ子	野村真澄
荻野　昇	馬場隆弘
奥田昌史	原田美保子
音川健二	日野　奏
加護谷直美	ペアンテ・ポーマン
笠原勝二	前田健一郎
甲藤さち	松崎里絵
加藤信吾	丸山正昭
金澤　茂	三浦正信
久保田一穂	宮原祐子
熊谷仁士	宮本直樹
黄原亮司	宮本　睦
小林照雄	森みさ子
小林利彰	諸橋健久
小林亮子	渡辺　功
阪本正彦	渡辺哲郎
佐川聖二	渡辺裕子
佐々木真	

☆ソロ首席奏者 ▣客演首席奏者 ◎首席奏者 ○フォアシュピーラー ●インスペクター
■本部長 □部長 ◘シニアディレクター ＊研究員・準事務局員 ◆故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide

チケットに記載された座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.

開演前に電子機器の電源はOFFに

マナーモードにしていても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.

補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.

周囲の視界を遮るような行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.

開演後の入場を制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.

演奏中の飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は、場内に響きますのでご遠慮下さい。

Refrain from eating and drinking during the performance.

演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.

咳、くしゃみをする際はハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.

曲の余韻も演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.

カーテンコールを除いて、ホール内での録音･録画･写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。
※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。
※スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

7/19 SAT. 21 MON.

川崎定期演奏会 第101回

2025年7月19日(土) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.101

Sat. 19th July 2025, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

第732回 定期演奏会

2025年7月21日(月·祝) 14:00 サントリーホール

Subscription Concert No.732

Mon. 21st July 2025, 14:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]
ガリーナ・チェプラコワ [ソプラノ]
ロバート・ルイス [テノール]
マティアス・ウィンクラー [バリトン]
東響コーラス [合唱]
冨平恭平 [合唱指揮]
東京少年少女合唱隊 [児童合唱]
長谷川久恵 [児童合唱指揮]
グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

字幕:Zimakuプラス
原訳:ニコライ・スリワースキー
日本語字幕:増田恵子

Jonathan NOTT, Conductor
Galina CHEPLAKOVA, Soprano
Robert LEWIS, Tenor
Matthias WINCKHLER, Baritone
Tokyo Symphony Chorus, Chorus
TOMIHIRA Kyohei, Chorusmaster
The Littli Singers of Tokyo, Children's Chorus
HASEGAWA Hisae, Children's Chorusmaster
Gleb NIKITIN, Concertmaster

Subtitles:Zimaku Plus
Translation of the Libretto:Nikolai SLIWERSKI
Japanese Subtitles:MASUDA Keiko

ブリテン:戦争レクイエム op.66(字幕付き)(78')

Ⅰ.レクイエム・エテルナム
Ⅱ.ディエス・イレ
Ⅲ.オッフェルトリウム
Ⅳ.サンクトゥス
Ⅴ.アニュス・デイ
Ⅵ.リベラ・メ

BRITTEN : War Requiem op.66(with Japanese Subtitles) (78')

Ⅰ.Requiem aeternam
Ⅱ.Dies irae
Ⅲ.Offertorium
Ⅳ.Sanctus
Ⅴ.Agnus Dei
Ⅵ.Libera me

●主催/公益財団法人東京交響楽団
●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))|独立行政法人日本芸術文化振興会
公益財団法人アフィニス文化財団、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション
公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団、公益財団法人朝日新聞文化財団
●後援/川崎市(7/19)、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(7/19)、在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル
●協力/ミューザ川崎シンフォニーホール[川崎市文化財団グループ](7/19)

本公演には休憩がございません。

楽曲解説はP.8をご覧ください

7/19SAT. 21MON.

©K.Miura

Jonathan NOTT

Conductor
ジョナサン・ノット
［指揮］

Music Director
音楽監督

東京交響楽団第3代音楽監督。イギリス生まれ。フランクフルトとヴィースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマンド管音楽監督も務める。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、主要オーケストラ・音楽祭に客演。2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞（オペラ・オーケストラ部門）」を、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」、毎日クラシックナビ「公演ベスト10」において、R.シュトラウス・コンサートオペラシリーズ《サロメ》、《エレクトラ》をベストコンサートに導く。レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くのCDをリリースしている。

Among today's renowned and interesting conductors, Jonathan Nott, is probably the most fascinating. His unique talent unites what appear to be irreconcilable opposites, creating deeply emotional yet gratifyingly intellectual interpretations, connecting to his musicians at the very humblest level, and bringing an unusual depth of analysis and spontaneous, heartfelt music-making, both in the symphonic and operatic repertoires, and in the field of contemporary music in all areas of music. As Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra, he enjoys near Popstar status, due not only to his intense and explosive aura while performing but also to his unusual programming creativity. Together with the TSO, he won "BEST CONCERT 2023" by Ongaku-no-tomo and "Best 10" by Mainichi Classical Navi for the concert opera series of R. Strauss "Salome" and "Elektra" as well as the 2020 Music Pen Club Japan Award. Unsurprisingly, he has conducted all major orchestras, performed with almost all famous soloists, and enjoys a long list of award-winning multi-channel recordings with TUDOR, SONY, PENTATONE and OCTAVIA.

Galina CHEPLAKOVA, Soprano
ガリーナ・チェプラコワ ［ソプラノ］

　ロシア出身。キリル・ペトレンコ指揮ベルリン・フィルと《フランチェスカ・ダ・リミニ》で共演、グラーツ歌劇場とバイエルン国立歌劇場で「椿姫」ヴィオレッタで好評を博した。今後は、オーストラリア・オペラ、モンペリエ国立歌劇場、ディジョン歌劇場、ウラディーミル・ユロフスキ指揮ベルリン放送交響楽団へのデビューが予定されている。

　昨シーズンは、カザフスタン国立オペラ・バレエ劇場で「エフゲニー・オネーギン」タチアナ、「ラ・ボエーム」ミミ、「ファウスト」マルグリート、「人間の声」ソロ、「アレコ」ゼンフィラ、バシキール国立オペラ・バレエ劇場で「カルメン」タチアナとミカエラ、バイエルン国立歌劇場で「スペードの女王」リーザの代役を務めた。

The 24/25 season features Galina as Francesca da Rimini with the Berliner Philharmoniker under Kirill Petrenko, soprano in War Requiem with the Tokyo Symphony Orchestra, Violetta in La Traviata at Oper Graz and Bayerische Staatsoper. Future engagements include Galina's debut at Opera Australia, Opéra national de Montpellier, Opéra de Dijon, and Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin under Vladimir Jurowski. Debut at The Metropolitan Opera as Liza in Queen of Spades.Last season, she performed Tatiana in Eugene Onegin, Mimi in La Bohème, Marguerite in Faust, solo in La voix humaine, Zemfira in Aleko at the Kazakh State Opera and Ballet Theatre, Tatiana and Micaela in Carmen at the Bashkir State Opera and Ballet Theatre, and covered Liza in Pique Dame at Bayerische Staatsoper.

Robert LEWIS, Tenor
ロバート・ルイス ［テノール］

©JeanLouisFernandez

　ウェールズ出身。ギルドホール音楽演劇学校を卒業。リヨン・オペラ座スタジオのメンバー（2022〜2024年）を務め、2024/25年には、「ヴォツェック」アンドレス、「エフゲニー・オネーギン」レンスキー、「こうもり」アルフレッドを務めるほか、「ナクソス島のアリアドネ」と「影のない女」にも出演する。リヨン・オペラ座、オランダ国立オペラにも出演。グラインドボーンでジャーウッド・ヤング・アーティストに選ばれ、イングリッシュ・ツーリング・オペラやガーシントン・オペラにも出演している。ベルリン・フィルハーモニーでの「エリヤ」などオーケストラとの共演も重ねている。これまでにテノール・ヴィーニャス国際声楽コンクールとハーン・コート・オペラコンクールで入賞している。

Welsh tenor Robert Lewis was a member of the Opéra National de Lyon Studio (2022–2024) and is a graduate of the Guildhall School of Music & Drama. In 2024/25, he sings Andres (Wozzeck), L'abbé (Andrea Chénier), Lensky (Eugene Onegin), Alfred (Die Fledermaus), and roles in Ariadne auf Naxos and Die Frau ohne Schatten. He has appeared with Opéra de Lyon, Nationale Opera Amsterdam, and Les Musiciens du Louvre. A former Jerwood Young Artist at Glyndebourne, he has also performed with English Touring Opera and Garsington. Concerts include War Requiem in Japan and Elijah at the Berlin Philharmonie. He is a prizewinner of the Tenor Viñas and Hurn Court competitions.

Matthias WINCKHLER, Baritone
マティアス・ウィンクラー ［バリトン］

　ミュンヘン出身。ザルツブルク・モーツァルテウムでアンドレアス・マッコ、ヴォルフガング・ホルツマイアーに師事。これまでに、ジョルディ・サヴァール、ヘルムート・リリング、ヴァシリー・ペトレンコといった指揮者と共演し、ウィーン・フィル、モーツァルテウム管弦楽団、ドレスデン・フィル、オスロ・フィル、ベルリン古楽アカデミー、バッハ・コレギウム・ジャパン、オランダ・バッハ協会等と共演。ザルツブルク・モーツァルト・コンクール、ライプツィヒ・バッハ・コンクールなどで最高位を受賞。2015年から2018年まで、ハノーファー州立歌劇場のソリストを務めた。歌曲にも力を入れており主要な国際音楽祭にも定期的に出演している。

Born in 1990 in Munich, bass-baritone Matthias Winckhler studied at the Salzburg Mozarteum with Andreas Macco and Wolfgang Holzmair. He has performed with conductors such as Jordi Savall, Helmuth Rilling, and Vasily Petrenko, and with orchestras including the Vienna Philharmonic, Salzburg Mozarteum Orchestra, Dresden Philharmonic, Oslo Philharmonic, Akademie für Alte Musik Berlin, Bach Collegium Japan, and Nederlandse Bachvereniging. He won top prizes at the Salzburg Mozart Competition, Leipzig Bach Competition, and others. From 2015 to 2018, he was a soloist at Hannover State Opera. A passionate Lied interpreter, he performs with pianists like Marcelo Amaral and Jan-Philip Schulze and appears regularly at leading international festivals.

7/19 SAT. 21 MON.

TOMIHIRA Kyohei, Chorusmaster
冨平恭平 [合唱指揮]

東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。群馬交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、ニューフィルハーモニー千葉、東京フィルハーモニー交響楽団、東京ニューシティー管弦楽団、東京交響楽団を指揮している。ピアニストとしてもリサイタルの伴奏、録音や協奏曲の弾き振りをしている。洗足学園大学ピアノ科非常勤講師。東京二期会音楽スタッフ、新国立劇場音楽スタッフをへて2019年4月新国立劇場合唱指揮者に就任。

Tokyo Symphony Chorus, Chorus
東響コーラス [合唱]

1987年9月、東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指導者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招き、公演ごとに出演者を決定するオーディションを行うことで常に演奏の質を高めている。歴代音楽監督の故秋山和慶、ユベール・スダーン、ジョナサン・ノットからの信頼も厚い。古典から現代音楽、また日本初演など幅広いレパートリーに対応している。他団体からの出演依頼も多く、近年では「ラ・フォル・ジュルネ」に出演、「長野の県民文化会館とウィーン楽友協会の提携40周年演奏会」に賛助出演し好評を得た。2020年にはアマチュア合唱団として初めて「ミュージック・ペンクラブ音楽賞 室内楽・合唱部門」を受賞。

メンバー表

●合唱指揮:冨平恭平
稽古ピアニスト:古瀬安子
発声指導:大沼　徹、高橋　淳
武内朋子、中山美紀

●委員長　岡　邦子 (Sop.)
●副委員長　鳥居順子 (Sop.)
垣花亜妙子 (Alt.)
奥貫壮史 (Ten.)
堀　浩史 (Bas.)

●パートリーダー
Sop. (正)遠藤由理 (副)佐藤由紀子
Alt. (正)水越睦美 (副)小林朋子
Ten. (正)内山誠彦 (副)枇杷高志
増渕　隆
Bas. (正)早川克己 (副)水野　敬

●コーラス委員
Sop. 増渕由佳、森田恵子、六井菜月
Alt. 小張さゆり、竹内あゆみ、鎗水みお
Ten. 大崎　純、田戸陽一、和田　敏
Bas. 篠田一朗、富岡　光、仲　恭令

Soprano
石井　恵
石村友希子
伊藤貴子
岩元邦子
内野英子
遠藤由理
大図マリ
大貫由香
岡　邦子
小笠原美貴
奥泉亮子
小野寺美和
川崎仁美
草野真由美
佐藤深雪
佐藤由紀子
島崎尚美
鈴木信恵
鈴木美和
瀬沼紀子
ソーントン久美
武田美香
都築靖子
鳥居順子
仁平朋子
東原なお
平川暢子
平田　栞
藤記富子
本行佳奈
増渕由佳
松本恵美
武藤弘美
室井千晶
森田恵子
森本由希
山下由美子
山津裕美
六井菜月

Alto
石渡範子
伊藤晴子
伊藤弥緒乃
糸永怜奈
近江柚乃
岡本いつか
奥山由里
尾崎いずみ
尾島夕里
尾田雅代
小名雅恵
垣花亜妙子
菊池万美子
木内道子
工藤有子
後藤幸子
小林朋子
小張さゆり
齋藤由紀
坂元靖子
坂本タカ子
佐々木美登
佐藤理恵
須田眞理子
関口あずみ
高田恵子
竹内あゆみ
田中美樹
辻　朱美
中島奏子
福島里美
藤崎幸子
藤盛美恵
堀西香織
水越睦美
鎗水みお
吉井久美子
吉岡美佳子
吉野辺園恵
吉村美恵子
和田真理
渡邉朋子

Tenor
有馬　猛
五十嵐建平
内山誠彦
大崎　純
大島克義
大図健史
小川　徹
奥貫壮史
奥村博康
菅野広和
木村　健
小島岳登
鈴木徹也
竹内邦夫
竹田　忍
竹本大祐
谷川　啓
塚本　隆
佃　浩一
中原裕幸
西　宏隆
菱田明宏
枇杷高志
穂谷岳征
増渕　隆
水谷晴彦
和田　敏

Bass
荒川雅人
安藤志津夫
池上陽一郎
今井俊博
岡野一哉
河村太郎
菊池　靖
北浦康勢
木内正則
倉沢正樹
黒澤　謙
河野　愛
小沼敬四郎
小山治彦
篠田一朗
竹内誠治
土井　丈
富岡　光
仲　恭令
西村　真
早川克己
平川尚義
堀　浩史
松木　望
水口敏也
水野　敬
宮坂知明
柳谷一彦
矢野　通
山崎弘光
山之内達也
横尾　優
米田　光
渡辺理公男

HASEGAWA Hisae, Children's Chorusmaster
長谷川久恵 [児童合唱指揮]

©LSOT

東京少年少女合唱隊の芸術監督/常任指揮者。主催公演並びに海外公演を牽引する傍ら、国内外のオペラ·オーケストラの公演にてコーラスマスターを数多く歴任。混声合唱曲にも対応するグループ「コールスLSOT」や声楽アンサンブル「カンマーコア」を組織し、幅広い演奏活動を展開。国内外の合唱コンクールの審査員や合唱祭などで講師を務める。

The Littli Singers of Tokyo, Children's Chorus
東京少年少女合唱隊 [児童合唱]

ヨーロッパの伝統音楽に基づく音楽教育を目的とする日本初の本格派合唱団として1951年設立。グレゴリオ聖歌から現代作品までレパートリーは幅広く、同声から混声までの合唱作品をカバーする。松平頼暁、一柳慧、細川俊夫等への委嘱作品も多く手掛ける。年2回の定期公演の他、1964年の訪米以来海外公演は34回を数える。国内外のオーケストラ、オペラ劇場との共演も多く、C.アバド指揮ベルリン·フィルをはじめR.ムーティ、F.ルイージとの共演では高い評価を得た。2021年に創立70周年を迎え、連続演奏会「70周年記念コンサートシリーズ2021-2023」を開催、最終公演をサントリーホールで実施。2024年5月に第34回海外公演を開催、ドイツ各地で5公演を実施。

株式会社パイロットコーポレーション

7/19SAT. 21MON.

ベンジャミン・ブリテン(1913～1976)

戦争レクイエム op.66

《戦争レクイエム》は、第二次世界大戦中にドイツ軍の大規模な空襲で破壊された、イングランド中部のコヴェントリー大聖堂の再建を記念して作曲された。ブリテンは1940年代後半から温めていた構想を実現しようと考えていた。二つの世界大戦の犠牲者を追悼するとともに、少年時代から彼の心に深く刻まれてきた反戦の信念と平和主義のマニフェストとなるような大規模な合唱作品の創作である。作曲は1961年4月から翌62年1月にかけて行われた。ブリテンは自身のパートナーであるテノール歌手のピーター・ピアーズ(英国)、そして親しい友人でもあったバリトン歌手ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ(ドイツ)と、ソプラノ歌手ガリーナ・ヴィシネフスカヤ(ロシア)の3人を念頭に作曲を進めた。そこには大戦中に敵国として戦った3カ国の歌手が集うことで、作品を和解のレクイエムとしたいという意図が込められていた。

「私の主題は戦争であり、戦争の悲哀である。詩は悲哀の中にある……。今日、詩人にできるのは警告することだけだ」。作品のスコアの巻頭には、第一次世界大戦に従軍し、戦場の悲惨さを歌った英国の詩人ウィルフレッド・オーウェン(1893～1918)の詩の一節が掲げられている。ブリテンは作品の構想を具体化する中で、ラテン語による伝統的な典礼文とオーウェンの戦争詩を組み合わせることを着想した。全体の構成はラテン語のレクイエムに基づくが、各楽章にはオーウェンの詩による歌曲が挿入される。ラテン語の典礼文はソプラノ独唱と合唱、オーケストラによって演奏され、その音楽はヴェルディの《レクイエム》を彷彿させる伝統的なレクイエムの様式に基づく。一方、オーウェンの詩は、兵士の声を代弁するテノールとバリトンの独唱によって歌われ、オーケストラ本体から独立した12名の室内オーケストラが伴奏する。こちらはよりブリテン自身の個人様式に近く、詩の世界を無駄のない繊細な音楽で再現する研ぎ澄まされた語法が用いられる。この両者に加えて、チェンバーオルガンを伴う少年合唱が舞台から離れた場所より無垢な歌声を響かせる。

オーウェンの戦争詩を用いた理由について、ブリテンはフィッシャー＝ディースカウへの手紙の中で、「破壊への憎しみに満ちたこれらの崇高な詩は、ミサについてのある種の注釈となっているのです」と説明している。ラテン語による死者への追悼に対して、オーウェンの詩は辛辣な表現で、またときには悲哀に満ちた言葉で戦場の凄惨な現実を伝える。その声は厳かな儀式の流れをたびたび中断し、人間を死に追いやる宗教的・社会的な権威に疑いの眼差しを向けるのだ。例えば、第1部〈レクイエム・エテルナム〉では「彼

らに永遠の安息をお与えください」という祈りの言葉が追悼の鐘の音とともに静まると、その残響の中からテノール独唱が「家畜のごとく死ぬ兵士たちにどんな弔鐘があると？」とオーウェンの詩を歌い始める。兵士たちを戦場へと送り出す国家や共同体に対する怒りと痛烈な批判が、ラテン語の典礼文との対比の中で表明されていくのである。

1962年5月30日、空襲で破壊された旧大聖堂の遺構の隣に再建されたコヴェントリー大聖堂で、《戦争レクイエム》は初演された。その演奏は圧倒的な成功を収める。作品は初演から数年のうちに世界各国で次々と演奏され、1963年に作曲者自身の指揮で録音されたレコードは発売からわずか半年で20万組もの売り上げを記録した。作品が書かれた1960年代、《戦争レクイエム》の「警告」は現実味を帯びたものでもあった。冷戦の緊張が頂点に達し、1961年には「ベルリンの壁」が建設され、1962年にはキューバ危機により核戦争の危機が現実のものとなった。ヴェトナム戦争も泥沼化しつつあった。《戦争レクイエム》の初演の際も、ソヴィエト政府は自国のソプラノ歌手ヴィシネフスカヤの出演に許可を与えなかった。時代の危機は音楽にも暗い影を落としていた。

終曲の第6部〈リベラ・メ〉には、オーウェンの詩「不思議な遭遇」によるテノールとバリトンの二重唱が挿入される。合唱と管弦楽が描き出す「怒りの日」の恐怖とカタストロフに続いて、戦闘の最中に命を落としたイギリス兵とドイツ兵とが出会う。「俺は君に殺された敵だよ」、「さあ、我々も眠ろう」。ふたりの対話に少年合唱と合唱が重なる。永遠の安息は訪れるのか。和解と平和は成し遂げられるのか。冒頭の追悼の鐘が鳴る。肯定とも否定ともつかない両義的な響きの中、「アーメン」の祈りとともに全曲は締めくくられる。世界各地で大規模な紛争や戦争の絶えない現在、私たちはその問いと祈りをどのように受け止めることができるのだろうか。《戦争レクイエム》のアクチュアリティは、今なお失われていない。

向井大策 Text by MUKAI Daisaku

作曲：1961年4月～1962年1月

初演：1962年5月30日コヴェントリー、ヘザー・ハーパー（sop）、ピーター・ピアーズ（ten）、ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ（bar）、コヴェントリー祝祭合唱団、ホーリー・トリニティ教会聖歌隊、バーミンガム市交響楽団、メレディス・デイヴィス指揮、メロス・アンサンブル、ブリテン指揮

編成：フルート3（ピッコロ持替1）、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット3（小クラリネット持替1、バスクラリネット持替1）、ファゴット2，コントラファゴット1，ホルン6、トランペット4、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、大太鼓、中太鼓、小太鼓、タンバリン、トライアングル、シンバル、ピアノ、オルガン、ハルモニウム、弦5部
室内オーケストラとしてフルート1（ピッコロ持替1）、オーボエ1（イングリッシュホルン持替1）、クラリネット1、ファゴット1、ホルン1、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、ゴング、ハープ、弦楽五重奏、独唱（ソプラノ、テノール、バリトン）、混声合唱、児童合唱

Symphony Lounge ［シンフォニー・ラウンジ］

ブリテンとオーウェン
～戦争の哀れみと和解の調べ

能登原由美（音楽評論家）

Edward Benjamin Britten × Wilfred Edward Salter Owen

1976年12月4日、ブリテンはオールドバラの自宅で世を去った。ロンドンから北東へ140キロ、北海に面した海辺の街にあるその家は、主人がまだ生きていた頃の様子が忠実に再現され、一般にも公開されている。筆者が2023年夏に訪れた際、ベッドを取り囲む棚には多くの書籍とともに3枚の写真が飾られていた。1枚は敬愛する師匠、フランク・ブリッジのそれ。反対側の棚には、公私ともに生涯のパートナーとなったテノール歌手のピーター・ピアーズ。だが残る1枚については、その場にいた2名のガイドはすぐには答えられない。筆者の問いかけに応じて写真を見返すと、手書きで「オーウェン Owen」とあった。第一次世界大戦で戦死した英国の詩人、ウィルフレッド・オーウェンのことである。いや、彼らがわからなかったのも無理はない。この詩人の肖像写真として知られるのは、軍服姿に髭を生やし勇敢さを湛えたもの。だが、日常の何気ないひと時をとらえたとみられるこちらの男性は、はにかむように手元の本を見やり、一見して同一人物とは見えなかった。ほとんど表には出てこない平服姿のこの写真をあえて枕元に置いていたというあたりに、この作曲家の生涯を貫く信念が強く伝わってきた。

「良心的兵役拒否」を裁判所に申請し、第二次世界大戦時に従軍を拒否したブリテン。反戦・反核運動にも関わるなど、

生涯を通じて「平和主義者」であったことが知られるが、その萌芽は少年時代からあった。例えば、子供に激しい体罰を与える教師。だが誰も助けようとしない。小学校に入学した日に見たその光景にショックを受けた記憶は、晩年に至るまで脳裏に焼きついていたという。創作活動においてもしかり。20代の頃からその信条を作品に投影させてきた。なかでも象徴的なのは、27歳の時に書いた《シンフォニア・ダ・レクイエム》。日中戦争のさなかにあった日本が1940年（昭和15年）の皇紀2600年祝典行事のために委嘱し書かれたものだ。亡くなった両親への鎮魂の思いを込めたが、戦時体制に邁進するこの国への皮肉でもあった。「反軍国主義」、「平和プロパガンダ」と自ら呼んだこの作品は大日本帝国政府の怒りを買い、演奏も出版も差し止めとなった（戦後、1956年に初来日したブリテン自身の指揮により日本初演がなされている）。

1945年、広島と長崎に原爆が投下され、人類を再び襲った世界戦争が終結する。ブリテンは核兵器の使用という残虐行為を告発するオラトリオの創作を模索するが、結局実を結ばないままとなっていた。その2年半後、「非暴力不服従」を唱えた宗教指導者マハトマ・ガンディーが暗殺されると、その死に大きな衝撃を受けた彼は追悼の声楽曲を書く構想を練る。だが、こちらも頓挫していた。そうしたなかで、音楽を通して戦争犠牲者を悼み非暴力を訴える機会が再び巡ってくる。のちに《戦争レクイエム》として結実するものだ。

故国イギリスも、この大戦では大きな被害を受けている。ドイツ軍による空からの攻撃は首都のほか中部の都市コヴェントリーでも大規模に行われ、1940年11月の空襲で街は徹底的に破壊された。市民にとってシンボルとなっていた大聖堂は廃墟と化し、戦後になって新たな聖堂の建設が決まったが、その完成を祝う式典で演奏する新作の委嘱がブリテンのところに舞い込んできたのである。必ずしも宗教的な内容でなくても良いとする依頼であったが、彼が選んだのは「レクイエム」。それも、ラテン語によるレクイエム典礼文に英語による詩を挿入するという特異なスタイルをとる。その詩の作者が、あの寝室に飾られていたオーウェンだったのである。

そのオーウェンは今でこそ反戦詩人として知られるが、当初からそうしたスタンスを取っていたわけではない。軍服姿

ブリテンとオーウェン～戦争の哀れみと和解の調べ

の写真が物語るように、第一次世界大戦には2度にわたり自ら志願して従軍している。陰惨を極めた塹壕戦などの体験を通じて、その思想は静かに育まれていったのだ。ヨーロッパを中心に未曾有の被害をもたらしたその戦いが終結したのは、1918年11月11日。オーウェンがフランスの地に散ったのは、その僅か1週間前のことであった。

私の主題は戦争であり　戦争の哀れみである
詩は哀れみの中にある…
いま詩人ができることは　警告だけである

《戦争レクイエム》の草稿の表紙裏に、ブリテンはオーウェンの遺したこのフレーズを書き込んでいる。戦地で紡がれた厳しい言葉は生前に日の目を見ることはなく、世に出たのは仲間の詩人らの手を介してであった。

当時はまだ幼かったブリテンがこの詩人のことを知ったのはいつだったのか。明確なことはわかっていない。ただし、1958年7月に放送されたラジオ番組のなかで、彼は最も気に入っている詩としてオーウェンの2つのテクストを挙げている。そのうちの一つが《戦争レクイエム》の最終盤に置かれた「不思議な遭遇」だ。殺し合いの末に亡くなった２人の兵士が、死後の世界で和解するというもの。「和解」はまさに再建されたコヴェントリー大聖堂の理念でもあったが、その献堂式のための作品の委嘱を受けたのはちょうどその年の秋のこと。建物のわずかな痕跡だけを残す旧聖堂跡地には、「和解」を表すシンボルが掲げられるが、ブリテンにより詩と音楽を通してそのメッセージが改めて示されることになった。1962年5月30日、エリザベス女王も臨席する記念式典の中で行われた初演では、3人の独唱者をドイツ、イギリス、ロシア出身の歌手とすることで文字通りの「和解」が目指される。結局、ロシア政府の許可が下りなかったためにこの時は実現しなかったが、翌年のレコーディングでついに達成された。

日本では今年、戦後80年を迎える。けれども海の向こうを見渡せば、この80年の間にも戦争は至るところにあり、実際には戦後と呼べる時期など一度もない。ブリテンとオーウェン、戦争の哀れみを謳い和解を求めた2人の作家による警告は、争いの絶えないこの世界にとって、今もなお大きな響きをもっているのである。

©N.Ikegami

Together With TSO
for Music Lovers
東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。
＊新会員の方です。ありがとうございました(6月20日現在。五十音順)。

ご 芳 名（敬称略）

法 人 会 員

プラチナ会員

株式会社エイチ･アイ･エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド･アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらーくホールディングス
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ
＊株式会社雅玖仁

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園･玉川大学
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーシンパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
税理士法人渡邉芳樹事務所

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八　別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フイルムビジネス
　イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社

©N.Ikegami

Together With TSO
for Music Lovers
東京交響楽団サポート会員

ご芳名（敬称略）

個人会員

サークル50

伊藤　晴美
伊藤　美樹
沖田　陽子
鴛海　量明
木暮　紀子
澤田　秀雄
清水　尚彦
山口　積恵
山口　知子☆
山口　学
匿名４名

☆名誉パトロン

サークル25

荒木　陽子
石川　晴依世
猪田　隆文
井上　孝昭
岡野　一哉
加藤　英輔
後藤　実
手塚　和彦
戸川　二郎
長瀬　雅則
平山　智史
山本　誠一郎
匿名３名

サークル10

天野　佳和
五十嵐　建平
井澤　菜緒子
井上　千恵子
岩田　新
内山　誠彦
梅沢　麻衣
遠藤　秀和
大城　明幹
大崎　明子
大島　肇
太田　純子
大塚　具幸
大類　浩
岡　邦子
尾崎　茂
小野　久子
片山　泰輔
片山　千栄
金山　尚弘
金田　好生
木賀　賢市
菊池　光剛
木内　正則·道子
小林　光
古丸　健
近藤　和喜夫
斎藤　脩司
佐々木　真
佐野　利勝
清水　幹雄
白井　恭一
高澤　美貴子
高田　光官
高津　麻子
高野　幸一
高畠　琢己
高家　正行
田口　之博
竹田　忍
田中　建一
谷川　啓
谷藤　明雄
千葉　清
角田　隆・直子
中澤　守正
中村　豊
成瀬　倉祥
西谷　公男
橋本　純一
原田　美保子
アーネスト M. 比嘉
枇杷　高志
星　久人
増岡　聡一郎
三浦　麻子
水越　睦美
満田　高久
峯岸　恭博
森　京子
森口　健
森口　優子
森下　国彦
八鍬　昭
山上　典彦
山口　重雄
山本　明
吉井　久美子
吉村　美恵子
米岡　修一
匿名15名

フレンズ5

東　恭代
有江　純子
石原　祥子
潮田　伊織
大川　朋彦
大野　紀子
奥秋　和彦
加藤　政晴
河野　愛
小林　義彦
佐藤　信一郎
塩澤　誠司
高際　比呂志
寺西　基之
中島　信男
長谷川　泰弘
早川　利郎
松信　正志
村松　秀幸
山口　聡
山田　修造
山本　喜良
吉田　哲四郎
渡邊　純一
匿名４名

フレンズ3

秋山　真一郎
明田　重樹
荒　洋一
有坂　あかり
石澤　卓志
井上　聖恵
井上　聡
岩瀬　正明
大崎　純
大津　透
大塚　啓一
大塚　啓司
大埜　展男
大橋　昌資
小川　康恭
奥瀬　篤
奥田　桂子
小澤　俊文
尾島　夕里
小田切　明子
皆瀬　修
加香　雄一
加藤　由美子
兼子　伸彦
菊池　綾
菊池　伸治
北川　洋
木下　盛弘
久保田　一穂
小木曽　孝
古杉　絢
小林　美智子
佐久間　明美
佐藤　悦子
佐藤　健司
清水　良枝
新保　和浩
杉田　弘也
須田　眞理子
関根　三善
竹内　あゆみ
田中　美貴子
田山　智広
都築　豊
中村　崇明
中村　元嗣
中村　幸雄
永井　洋一
浪川　淳子
成田　清美
西田　悦子
西田　尚弘
根本　直之
根本　暢明
野島　秀太郎
早川　克己
林　美奈子
春川　京子
福田　昭夫
藤田　栄
藤田　淑子
藤野　盾臣
藤森　朗
星　直樹
堀江　智巳
松下　一彦
三橋　正典
村田　拓郎
森本　由希
森山　健治
安江　仁孝
山田　敏之
山中　喜義
鎗水　みお
横尾　順
＊吉冨　真紀子
吉原　美紗恵
渡辺　敦郎
和田　真理
匿名32名

フレンズ1

■あ
相磯　浩
青木　眞輝
青野　寛道
＊赤坂　佳子
赤崎　述子
赤塚　節恵
秋元　淳志
秋本　大士
朝倉　わか子
浅里　文男
安達　郁夫
足立　めぐみ
穴水　幸子
阿部　浩子
阿部　靖彦
阿部　百合子
新井　祥一
生田　裕一
池田　利昭
石井　誠子
石川　由紀
磯村　幸一郎
井手　泰宏
伊藤　勉
伊藤　晴子
伊藤　宗功
伊藤　力雄
稲葉　順一
井上　康子
猪瀬　正
今井　聡
今井　由紀夫
今井田　邦男
今宮　美知子
今村　知子
今村　裕
岩澤　淳子
岩瀬　順子
岩野　裕一
上田　洋子
臼居　正昭
内海　重男
内田　誠
宇野　正芳
梅里　拓志
＊梅原　秀元
梅本　千枝子
瓜生　こずえ
江藤　祐子
大川　剛
大越　貴志子
大嶋　孝義
大島　正
大島　初彦
大島　康彦
大島　裕美子
大塚　賀久
大友　英司
大貫　由香
大畑　喜信
大堀　慶裕
大森　悦子
大森　幸吉
大八木　節子
岡田　政顕
岡田　正道
岡田　美穂
岡野　明徳
岡村　兵衛
小川　幾子
＊小川　徹
沖　知子
奥秋　和歌子
奥泉　亮子
奥田　由美子
奥貫　壮史
奥村　克彦
小倉　ヒロ·ミヒャエル
尾崎　正美
小名　雅恵
小野　信也
小野　英樹
尾野　美和
小野塚　純二

■か
甲斐　幸士
海藤　慶子
方波見　和雄
葛城　伸一
加藤　洋子
加藤　里加子
狩野　裕基
椛沢　頼子
川口　善行
＊川名　康一
川野　安子
川之上　裕美子
菅野　広和
菅野　雄平
北野　雅子
北村　眞
木下　泰子
木下　亮平
木村　好一
木村　達央
木村　富士子
清田　一正
久保田　伸一
倉谷　宏樹
栗原　潔

©N.Ikegami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

＊新会員の方です。ありがとうございました(6月20日現在。五十音順)。

小石　恵子
小泉　徹
小泉　博
好士﨑　稔子
河野　太
国府　里美
国府　保周
小西　淳
小沼　敬四郎
小林　恭二
小林　宏州
小林　浩
小林　優大
小森　クミオ
小山　智代子
近内　光一
近内　友吏子
後藤　純子
後藤　美穂
後藤田　裕二

■さ
齊藤　ひろ子
齋藤　博
齋藤　将隆
齊藤　美陽
齊藤　有司
酒井　典子
坂本　タカ子
前刀　禎明
佐久間　昭宏
櫻井　智子
佐々木　紀明
佐々木　通博
佐々木　基
佐藤　幸子
佐藤　大助
佐藤　孜
佐藤　深雪
佐藤　美和子
佐藤　由紀子
重成　瞳
茂野　俊郎
重松　恒夫
宍戸　宗太
宍戸　雅之
篠田　一朗
柴橋　俊也
渋川　朋子
嶋谷　宏明
清水　重夫
清水　元
志村　崇
下田　和代
庄司　一彦
白石　大
杉山　啓次
杉山　慎二
鈴木　可奈子
鈴木　慶子
鈴木　啓介
鈴木　孝治
＊鈴木　隆之
鈴木　忠明
鈴木　美和
諏訪　幸恵
清木　達
清木　穂名美
關　翔太
関　二郎
關　俊朗
関　洋
関口　あずみ

■た
高木　敏和
髙木　晴彦
高野　洋二
高橋　勝弥
高橋　美穂
高橋　有一
髙橋　由美
高橋　ユリコ
＊髙橋　里奈
高松　則雄
高森　幸男
竹内　聖子
竹内　真也
竹内　みお
竹内　竜太
武尾　和彦
竹腰　正隆
竹下　裕行
武田　和大
多田　泰三
田中　敬子
田邊　禎二
谷川　浩司
田渕　泰弘
田部井　美也
玉井　正浩
千田　晴久
千葉　絵里
塚田　和男
築館　玲子
津久井　淳
坪井　洋一
鶴岡　敬一
寺田　治男
東條　保子
遠山　淳夫
登原　明史
富川　泰雄
冨田　博之
友近　圭祐
＊鞆森　祥悟
豊島　峯生
鳥居　順子
鳥居　夕紀夫

■な
中沢　忠
中西　容子
中村　治人
長岡　秀成
長瀬　利明
永田　郁子
永浜　麗子
新倉　啓介
西岡　直実
西川　晶
西川　陽子
西中川　淑子
西村　淳夫
西村　真
西村　由里子
西山　英昭
野口　信弘
野口　真有美
野村　一成
野村　真澄

■は
橋爪　千鶴子
橋本　和雄
橋本　憲人
長谷川　博
長谷川　真
早川　明男
林　欣吾
林　修子
林　博子
林　眞喜子
林本　秀範
原　ひとみ
原田　慶子
坂東　泰子
肥後　恵子
檜谷　亜樹
平田　行雄
平野　克人
廣瀬　泰文
廣中　直行
深沢　茂実
福嶋　英和
藤田　鋼一
藤田　透
藤巻　綾子
古市　雄二
古川　郁子
古澤　美樹
古屋　清敏
宝徳　光樹
細川　由利子
堀　浩史
堀川　信子

■ま
牧口　光郎
真木　太郎
幕田　正司
桝井　明
松岡　秀樹
松澤　聡
松下　泰之
松本　繁
松本　純
圓尾　雅則
三神　隆
水野　弘
水谷　晴彦
三田　純子
宮川　悦子
三宅　雅之
宮坂　健司
宮崎　哲
宮﨑　信夫
宮寺　昇
宮本　陽子
村上　誠司
村上　卓也
村本　信幸・京子
目黒　英一
森　里美
森島　政和
諸岡　喧子

■や
柳沼　美智子
柳　雅一
柳本　友幸
山内　隆幸
山縣　裕児
山岸　勇一郎
山口　あすか
山口　政継
山﨑　純代
山田　美生子
山田　洋治
山本　博
湯川　俊明
吉江　健志
吉岡　真紀子
吉田　昌敬
吉富　美紀
吉野　民子
吉見　幸子
米田　徹
米田　光
米村　恵子
米谷　克幸

■わ
渡邉　朋子
C.S.
N.S.
T.Saito
匿名 159 名

■栄誉会員
ヨーコ・ナガエ・
チェスキーナ

遺贈･相続ご寄付(敬称略)

竹内　容子
齊藤公治メモリアル基金
牧野　季子
岡橋　純男
岡橋　孜

法人定期会員

【定期演奏会】
東京コンテナ工業株式会社

Together with TSO
For Music Lovers

特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただき、当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱い分のみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

安齋　優
清木　達
東　由美子
星　直樹
前田　泉
森山　雅一郎
山本　淳一
匿名 9 名
(敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511へお電話でお願いいたします。

Together With TSO
for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

＜東京交響楽団サポート会員制度＞

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングよる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。
そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ち申し上げております。

個人会員

- **フレンズ1** 年額1万円 〜29,999円
- **フレンズ3** 年額3万円 〜49,999円
- **フレンズ5** 年額5万円 〜99,999円
- **サークル10** 年額10万円 〜249,999円
- **サークル25** 年額25万円 〜499,999円
- **サークル50** 年額50万円〜

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけではなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

- **ブロンズ** 年額10万円〜
- **シルバー** 年額30万円〜
- **ゴールド** 年額50万円〜
- **ダイヤモンド** 年額100万円〜
- **プラチナ** 年額1000万円〜

会員特典　詳細はHP、又はお電話でお問合せ下さい	法人会員	サークル会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 *1	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 *2	○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミューザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。
◎個人の場合：「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分[*3] について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。
　また相続税にも控除が適用されます。
◎法人の場合：「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。[*3]
[*3]但し、各該当法令で定められた限度があります。
その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。
http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html

サポート会員へのご入会・お問合せ
公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部
TEL 044-520-1518
E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians 楽団員紹介

オーケストラへの愛を胸に、進み続けるヴァイオリニスト

田尻 順

TAJIRI Jun

［コンサートマスター］1994年入団

趣味：模型など何か物を作ること

©N.Ikegami

ヴァイオリンという楽器は

両親がオーケストラのレコードを家でよくかけていて、赤ん坊のときヤッシャ・ハイフェッツによるチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を聴くと泣き止んでいたそうです。そんな経緯もあり、ヴァイオリンを始めた時からオーケストラに関心がありました。

中学校では吹奏楽部に入部しましたが、違う楽器を経験したことで、ヴァイオリンの魅力を再認識。アンサンブルに参加する楽しさも感じたため、オーケストラで演奏したい気持ちが強くなっていきました。

願い叶って東京交響楽団に入団し32年、演奏家として必死に過ごす毎日ですが、ヴァイオリンと出会え、演奏を分かち合える仲間と出会えたことで、いつも幸せに感じています。

演奏家として東京交響楽団の一員として

私が入団した当時から、東京交響楽団はとても勢いがありました。楽員が前向きかつ演奏に積極的な楽団で、このオーケストラに入団できたことをうれしく思ったことを思い出します。今は楽員の世代が変わり、時代の移り変わりも経て、緻密さが増したことで当時からの勢いは保ったまま、繊細な部分も併せ持つ日本で一流のオーケストラになっていっていると感じます。

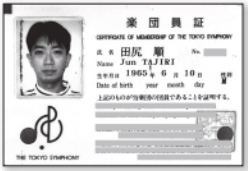
演奏者それぞれが持つ情熱を体現し音にしていく。その重なりが東京交響楽団ならではの音になっていると思います。

日々メンバーの話を聞くのは好きですし、各セクションとの交流により理解も深まるため、ステージに立った際にこの行動が生かされているのかもしれません。

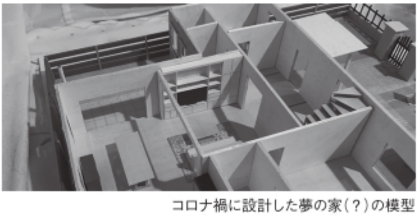
入団して最初の定期演奏会（秋山和慶指揮、マーラー：交響曲第5番）で満席の客席を見た瞬間や、ノット監督との初共演など、印象深い公演は多々ありますが、すべての公演に関わる人との出会いが自分にとって素晴らしい経験となり、この在籍年数につながったと思います。

これまでの一つ一つの出会いすべてに感謝しつつ、これからも東京交響楽団で演奏していければと思っています。

ただ、もし時間に余裕ができたら、コロナ禍も作っていた趣味の模型作りをゆっくり楽しみたい気持ちもありますね（笑）。



入団時の楽員証



コロナ禍に設計した夢の家（？）の模型

インタビュー：事務局

NEWS & TOPICS

2025年9月、第1コンサートマスターに、景山昌太郎が就任

今後は、小林壱成、グレブ・ニキティンとの3名体制で当団の魅力をより高める活動を展開してまいります。

[景山昌太郎コメント]

東京交響楽団に初めてゲスト・コンサートマスターとして演奏させていただいたのは、10年前。今年逝去された桂冠指揮者、秋山和慶氏指揮のマーラー "復活"でした。楽団にとって忘れ得ないこの年に、第1コンサートマスターに就任することは、より特別な責任を感じます。ドイツでの14年間で得た様々な出会い、経験は、私を大きく成長させてくれました。ノット監督の任期最終年に携われる幸運と、新たにヴィオッティ氏を迎える期待を胸に、伝統あるオーケストラの一員として、皆様と豊かな音楽を創造、共有していく所存です。

景山昌太郎 KAGEYAMA Shotaro

プロフィール

東京藝術大学を首席で卒業。同大学院在学中の2011年に渡独。マクデブルク歌劇場オーケストラの副首席奏者を経て、2013年から2025年までハーゲン歌劇場オーケストラ第1コンサートマスターを務める。ゲストコンサートマスターとして、ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団等、多くのオーケストラに招かれる。ソロ、及び室内楽奏者として、尾高忠明、高関健、Anna-Maria Helsing、Joseph Trafton、ライプツィヒ弦楽四重奏団、フリッツ・ドレシャル、原田禎夫、ヨハネス・モーザー各氏等と共演。

©Eiji Yamamoto

正団員 2025年7月1日付 藤田麻理絵 FUJITA Marie［ホルン奏者］

武蔵野音楽大学卒業。アフィニス文化財団の海外研修員としてバーゼル音楽院に留学。
2009年～2024年まで新日本フィルハーモニー交響楽団に在籍。
尚美ミュージックカレッジ専門学校非常勤講師。アレキサンダーホルンアンサンブルジャパンメンバー。

新入団 2025年7月1日付 内岡沙月 UCHIOKA Satsuki［コントラバス奏者］

・Report 2025年5月28、29日、6月1日

東京交響楽団 アジア・プロジェクトツアー in タイ、マレーシア

アジア・プロジェクトも3シーズン目を迎え、2公演とも満席になったバンコク公演には、提携するロイヤル・バンコク交響楽団やシラパコーン大学をはじめとする現地の音楽家や日本大使、日本人学校の先生など、たくさんの友人たちも来場してくれました。

5/28大友直人指揮のクラシックプログラムでは、牛田智大さんのショパン：ピアノ協奏曲第1番と、壮大な「展覧会の絵」に、大きな歓声と拍手をいただきました。

タイ・ユース・オーケストラのメンバーとともに
金管・木管・弦楽3つのアンサンブルによるウェルカム演奏(5/29)

2日目(29日)、佐々木新平さんの指揮、"アニメ&シアターミュージック"は、牛田さんをソロに迎えて久石譲の映画音楽や、ミュージカル女優の新妻聖子さんの歌、「となりのトトロ」のナレーションと、日本でも聴くことができないプログラム。タイを第2の故郷と呼ぶ新妻さんのタイ語のMCで、若い聴衆との一体感も生まれました。

バンコク公演2日目 新妻聖子(Vo.)による映画音楽などで満席の会場を盛り上げた

マレーシアが誇るペトロナス・フィルハーモニック・ホールでの当団初のクアラルンプール公演は、外国オーケストラ公演が少ない現地で多いに注目され、会場には多くの若い世代を含めた聴衆を集めました。

6月1日 クアラルンプール公演(指揮大友直人、ピアノ牛田智大)

今回は、演奏会の合間を縫って、楽員によるユースオーケストラの指導や合同演奏もあり、新しい交流も始まりました。アジア・プロジェクトは、9月13日にマレーシア・フィルハーモニー定期演奏会への参加、そして12月22日にはミューザ川崎シンフォニーホールでのロイヤル・バンコク交響楽団とのフレンドシップ・コンサートと続きます。

5月31日クアラルンプール・ユースオーケストラのワークショップ(チェロ伊藤文嗣)

今年も販売決定！
東響オリジナルTシャツ2025「Nottissimo」

2011年より続いたノット監督と東京交響楽団の音楽の旅。そのラストシーズンを記念して、≪Nottissimo≫をあしらったオリジナルTシャツが登場。7月19日（土）川崎定期演奏会第101回より、会場にて販売。（会場ご用意分、数量限りあり。当日先着順となります）
会場お求め･お問い合わせは東響SHOPまで。

NEXT PROGRAM

8/2（土） 東京オペラシティシリーズ 第146回
14:00 東京オペラシティコンサートホール

© Benjamin Ealovega

指揮：リオ･クオクマン／ピアノ：ハオチェン･チャン

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第3番
ベルリオーズ：幻想交響曲

S¥7,500　A¥6,500　B¥4,500　C¥3,500

8/15（金） 軽井沢シリーズ 第4回
軽井沢大賀ホール

©Seiichi Saito

©kumiko Suzuki

11:00 0歳からのコンサート

ピアノ：金子三勇士／ヴァイオリン：グレブ･ニキティン
お話：原田慶太楼

0歳から入場可能！
今年はピアニストの金子三勇士さんがピアノを紹介！
おむつ替え室＆授乳室あり

全席指定（1階席のみ）￥1,000 ※0～2歳無料（ひざ上の場合）

17:00 オーケストラコンサート

芥川也寸志：弦楽のための3楽章
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」
ベートーヴェン：交響曲 第5番「運命」

S¥8,000　A¥6,000　B¥4,000

8/23（土） 第733回 定期演奏会
18:00 サントリーホール

©井村重人

指揮：アダム･ヒコックス／ピアノ：谷 昂登

リャードフ：交響詩「魔法にかけられた湖」
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番
ショスタコーヴィチ：交響曲 第10番

S¥8,500　A¥6,500　B¥5,500　C¥4,500　P¥3,000

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511（平日10:00 ～ 18:00 ／土日祝休）

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA
Jonathan Nott, *Music Director*

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト https://tokyosymphony.jp

©T.Tairadate

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ58都市80公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。

桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。

The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine. Der Rosenkavalier in Concert Style (2024)concluded the finale of R. Strauss project with a great acclaim. They won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 80 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート
【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】

NICO NICO TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団

音楽・動画配信サイト
「TSO MUSIC & VIDEO SUBSCRIPTION」
1か月550円(税込)

このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE
Symphony
Symphony 2025年(令和7年)7月号[非売品]
発　行　公益財団法人東京交響楽団　〒169-0073　東京都新宿区百人町2-23-5　TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス>　〒212-8554　神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミューザ川崎セントラルタワー 5階　TEL 044-520-1518
Art Direction & Design：Be.To Bears　印刷：NHKビジネスクリエイト